

鉄道車両を起因物（小）とする死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	業種 (小) コード	事故 の型 コー ド	労 働 者 規 模
1999	2	0 ～ 1	ミニバイクでピザを宅配中、警報機も遮断機も付いていない第4種踏切りで臨時列車にはねられた。	80209	18	10 ～ 29
1999	2	4 ～ 5	軌道整備で枕木の変換作業中、始発普通電車(8両編成)に接触して頭蓋底骨折を負った。	30104	6	1～ 9
1999	3	0 ～ 1	地下鉄駅でホームへ行くため、駅階段を下り目的地の駅出口に便の良い電車乗り口に向かうためホーム上を歩いているときに線路に落ち、そこへ電車が入ってきて轢死した。	90103	18	100 ～ 299
1999	2	12 ～ 13	貨物線の列車検知用インピーダンスボンド導線1組を取り替えるため、片ねこトコ2台に材料・工具等をのせて、6名が軌道内を歩き始めたところへ、臨時回送列車が接近してきたため、待避する間もなく5名が電気機関車に激突され、3名が即死、2名が収容先の病院で死亡した。	30309	18	1～ 9
1999	2	12 ～ 13	貨物線の列車検知用インピーダンスボンド導線1組を取り替えるため、片ねこトコ2台に材料・工具等をのせて、6名が軌道内を歩き始めたところへ、臨時回送列車が接近してきたため、待避する間もなく5名が電気機関車に激突され、3名が即死、2名が収容先の病院で死亡した。	30309	18	1～ 9
1999	2	12 ～ 13	貨物線の列車検知用インピーダンスボンド導線1組を取り替えるため、片ねこトコ2台に材料・工具等をのせて、6名が軌道内を歩き始めたところへ、臨時回送列車が接近してきたため、待避する間もなく5名が電気	30309	18	1～ 9

			機関車に激突され、3名が即死、2名が収容先の病院で死亡した。			
1999	2	12 ～ 13	貨物線の列車検知用インピーダンスボンド導線1組を取り替えるため、片ねこトロ2台に材料・工具等をのせて、6名が軌道内を歩き始めたところへ、臨時回送列車が接近してきたため、待避する間もなく5名が電気機関車に激突され、3名が即死、2名が収容先の病院で死亡した。	30309	18	1～ 9
1999	2	12 ～ 13	貨物線の列車検知用インピーダンスボンド導線1組を取り替えるため、片ねこトロ2台に材料・工具等をのせて、6名が軌道内を歩き始めたところへ、臨時回送列車が接近してきたため、待避する間もなく5名が電気機関車に激突され、3名が即死、2名が収容先の病院で死亡した。	30309	18	1～ 9
1999	12	17 ～ 18	モノレールの塗装専用車の試運転で、4回目の復路の停止予定地点に到達する前にブレーキをかけたが停止せず、そのまま予定地点を通過してターミナルである点検車庫内に停車していた作業車に激突し、乗員5名のうち運転をしていた1名が死亡した。	30302	3	50 ～ 99
2000	2	11 ～ 12	鉄道跨線橋の架替え工事で、線路のレールレベルの測定を行っている作業員を指導していた者が下り電車通過直後に上り線路内に立ち入って接近してた特急電車にはねられた。	30105	6	1～ 9
2000	3	23 ～ 24	駅構内に停泊する電車2編成の車内清掃を行う予定で、清掃を行う車両の駅到着まで待機するホーム駅長事務室へ行くため線路を横断して近道をしたところ、通過中の回送電車に激突された。	150109	6	30 ～ 49
2000	9	17 ～ 18	集金のため原動機付自転車にて走行中、警報機、遮断機の無い踏切で、電車にはねられた。	80205	18	10 ～ 29
2000	6	14 ～ 15	設計打合に出席するため、会社近くの駅から電車、ホームに行ったときに線路上に転落し、電車にひかれた。	80209	18	50 ～ 99
2000	12	13	電車が終着駅に入線したところブレーキが故障していて所定の位置に停車できずに約1km走行し、反対側から走行してきた車両に正面衝突し	40101	18	100 ～

		14	た。(乗務員1名死亡、乗務員2名と乗客24名が負傷)			299
2000	12	11 ～ 12	安全衛生委員会に出席する同僚職員を迎えに行くため車で走行中、警報機だけの踏切に差し掛かったところでレールバスと衝突した。	160101	18	10 ～ 29
2000	2	15 ～ 16	夕刊の配達途中、警報機付踏み切りで普通電車で跳ねられた。	80205	18	10 ～ 29
2000	9	9 ～ 10	上り線軌道のバラスト整理作業を開始するため上り線に作業標識を設置したのち、下り線脇を作業場所まで戻っていたときに特急列車に激突された。	30104	6	10 ～ 29
2001	1	9 ～ 10	枕木調査(目視)を行うため3人で軌道内に入って上り電車線の調査を開始したときに、現場を通過する上り快速電車で接触した。	40101	6	10 ～ 29
2001	2	18 ～ 19	駅構内において、下り線のポイント(転てつ器)の不転換が発生し輸送指令から調査を指示された見張員1名とパート作業員2名が上り線内を通りポイントに向かう途中、見張員と作業員1名が列車に跳ねられた。	40101	18	100 ～ 299
2001	2	18 ～ 19	駅構内において、下り線のポイント(転てつ器)の不転換が発生し輸送指令から調査を指示された見張員1名とパート作業員2名が上り線内を通りポイントに向かう途中、見張員と作業員1名が列車に跳ねられた。	170201	18	30 ～ 49
2001	4	18 ～ 19	積みつけ確認係として駅構内でコンテナと列車の確認作業を行っていたときに、走行してきた貨物列車にひかれた。	40301	18	100 ～ 299
2001	10	8 ～ 9	線路近くの民家の測量を線路敷地内に立ち入って行って、測量地点を移動していたときに接近する電車で気付くのが遅れて電車で激突された。	170209	18	1 ～ 9
2001	11	10 ～	戒名彫りの注文を受けた墓を確認するため軽ワゴン車で直接墓のある墓地へ行き、そこから帰る途中、踏切で列車と衝突した。	80209	17	1 ～ 9

		11				
2002	1	11 ～ 12	枕木交換工事現場で列車の待避中、工事責任者が待避位置を離れ列車と接触した。	30199	18	100 ～ 299
2002	1	11 ～ 12	河床の掘削工事において、4tトラックで土砂を運搬中に土砂が踏切の路線上に落ちたので、路線上の土砂を取り除くため遮断機が下りている踏切内に入り、特急列車にはねられた。	30107	18	10 ～ 29
2002	6	2 ～ 3	私鉄の駅間でダンプトロリーに積載した砕石を順次降ろす作業を行って、工事桁に差し掛かったところで桁の開口部に足をとられレール側に転倒したときに、移動中のダンプトロリー轢かれた。	40101	7	30 ～ 49
2002	10	17 ～ 18	仮設駅の建設工事において、仮設ホーム下部のジャッキベースと敷板を固定する作業を行っていて、高さ約1mのホーム上に乗り上がろうとしていたときに特急電車と接触した。	30209	18	1～ 9
2002	10	13 ～ 14	線路沿いの電柱の支線を設置する工事において、作業箇所へ向うため線路を上り線から下り線の方へ横切っているとき、上り線と下り線の間には張ってある高さ約60cmのロープに引っ掛かって転倒し電車に轢かれた。	30104	7	1～ 9
2002	12	11 ～ 12	JR線の踏切付近で矢板打込み作業の見張をしていて、普通列車に接触して水路内に転落した。	30107	18	30 ～ 49
2003	1	2 ～ 3	新幹線の上り線においてケーブルの敷設作業で、当日予定のケーブルを敷設し終えたので線路上の台車上で載せていたケーブルドラムが回転しないようロープで固定する作業を行っていて、高さ1.2mの台車から転落した。	30301	1	10 ～ 29
2003	3	9 ～ 10	電車の軌道上で電気系統の点検中、上り電車を避けたときに下り電車と接触し電車に引きずられた。	40101	18	30 ～ 49

2003	5	13 ～ 14	約300m離れたところにある工場に停めてある列車内の清掃をするため、構内運搬車に乗って作業用道路を走行し、線路を横断しようとしたときに、工場内から出てきた列車と衝突した。	150109	6	30 ～ 49
2003	6	9 ～ 10	当日の夜間作業の打ち合わせを終えて駅に向かっているときに、軌道内で電車に背後から激突された。	40101	18	30 ～ 49
2003	6	4 ～ 5	鉄道線路で、保線車両を使用したバラストのつき固め作業中に上り線特急にひかれた。	30199	18	10 ～ 29
2003	11	7 ～ 8	遮断機の下りた踏切を通過しようとして踏切内に立ち入ったときに、急行電車の通過で起きた風にあおられて転倒し地面に頭部を強打した。	110101	2	300 ～ 499
2004	12	9 ～ 10	ライトバンでデイサービスの利用者の送迎中、踏切（遮断機、警報機なし）内で、線路上を走って来た列車が衝突した。	130201	18	30 ～ 49
2004	3	18 ～ 19	線路内に落したお金を拾って欲しいとの依頼を受けた被災者が、駅ホームから線路内に降りて、お金を探していたところ、時速100kmほどで駅を通過した電車にひかれた。	40101	18	30 ～ 49
2004	12	8 ～ 9	踏切付近において、道床整備工事と呼ばれる線路の下に敷き詰めている石材を締め固める作業を行っていたところ、通過する列車にはねられ死亡した。	30104	18	10 ～ 29
2005	12	11 ～ 12	国道跨線橋下の耐震補強工事現場において、鉄道車両の見張りを行っていた被災者が鉄道車両にはねられた。	170201	6	100 ～ 299
2005	4	11 ～ 12	駅構内の線路点検作業中、列車見張員をしていた被災者が、作業終了後に詰所へ戻るため駅構内の線路を横断中、接近してきた回送列車に接触された。	40101	6	30 ～ 49

2005	11	15 ～ 16	線路のバラスト交換工事のため、ドラグ・ショベルで線路の上を自走して、鉄橋の上を移動する作業を行っていたところ、走行してきた普通列車（2両編成）に追突された。	30104	18	30 ～ 49
2005	12	19 ～ 20	列車が転覆し、乗客として乗車していた被災者が巻き込まれた。	11403	18	300 ～
2005	6	16 ～ 17	用務先より事業場に戻る途中の鉄道駅のホームから転落し、進入してきた列車と接触した。	170202	18	10 ～ 29
2005	4	9 ～ 10	乗車していた列車が脱線した。	80209	18	30 ～ 49
2005	3	16 ～ 17	社用先から帰社途中、駅付近の踏切で電車にはねられた。	90103	18	300 ～ 499
2005	4	9 ～ 10	出勤のために乗車した電車の事故に巻き込まれた。	120102	18	50 ～ 99
2005	4	9 ～ 10	電車に乗務中、車両が脱線した。	40101	18	100 ～ 299
2005	4	9 ～ 10	乗車した電車が脱線した。	170101	18	300 ～
2005	1	12 ～ 13	駅ホーム向かいに設置している看板の清掃作業を行っていたところ、走行して来た貨物列車に被災者が接触した。	150109	6	10 ～ 29

2005	4	9 ～ 10	電車に乗車中に脱線転覆事故に巻き込まれた。	10803	18	～ 299
2005	6	22 ～ 23	線路内で枕木交換のため、交換する枕木を載せたトロッコを5人で押して作業現場に向かっていたところ、後方から列車がきて、はねられた。	30104	6	30 ～ 49
2005	3	20 ～ 21	鉄道終点で、列車が停車せず、列車止めを乗り越え、駅舎に激突した。	40101	18	100 ～ 299
2005	3	12 ～ 13	レール削正作業において、作業開始前に写真撮影をしていたところ、走行してきた列車に接触し、はね飛ばされた。	30104	18	30 ～ 49
2006	1	13 ～ 14	保線作業員7名が、線路内で、タイタンパー2台を用いたバラスト突き固め作業中に、列車に作業員3名がはねられた。本来配置すべき位置と反対側に見張員を配置していたため、接近してくる列車から退避できず、被災した。	40101	18	30 ～ 49
2006	1	13 ～ 14	保線作業員7名が、線路内で、タイタンパー2台を用いたバラスト突き固め作業中に、列車に作業員3名がはねられた。本来配置すべき位置と反対側に見張員を配置していたため、接近してくる列車から退避できず、被災した。	40101	18	30 ～ 49
2006	1	13 ～ 14	保線作業員7名が、線路内で、タイタンパー2台を用いたバラスト突き固め作業中に、列車に作業員3名がはねられた。本来配置すべき位置と反対側に見張員を配置していたため、接近してくる列車から退避できず、被災した。	40101	18	30 ～ 49
2006	6	4 ～ 5	軌道敷地内において、軌道に接した箇所で、新たなレールの溶接工事の仕上げ作業を行っていた被災者が、軌道を走行してきた貨物列車にはねられた。	30104	18	10 ～ 29

2006	7	2 ～ 3	分岐機の点検と枕木の交換工事において、ホーム横上り本線上で携帯電話にて事前打合せをしていたところ、急行電車に激突された。	30104	18	～ 299	100
2006	8	6 ～ 7	被災者はバイクに乗車し、新聞配達を行っていた際に、踏み切り内で列車に接触した。	80205	18	1～ 9	
2006	10	5 ～ 6	駅構内において、駅構内管理業務中に、下り線（2番線）ホームの線路上にいた被災者が、下り貨物列車にはねられた。	40101	18	～ 49	30
2006	12	14 ～ 15	被災者2名が、駅下りホーム下、線路上で、レールのつなぎ目部分である伸縮継目の写真撮影を行っていたところ、通常ダイヤの間に運行していた試運転の車両に轢かれた。	40101	18	～ 29	10
2006	12	14 ～ 15	被災者2名が、駅下りホーム下、線路上で、レールのつなぎ目部分である伸縮継目の写真撮影を行っていたところ、通常ダイヤの間に運行していた試運転の車両に轢かれた。	40101	18	～ 29	10
2006	12	16 ～ 17	市内でピザ配達のためバイクを運転中の被災者が、踏切を横断中、普通電車に衝突した。	80209	18	1～ 9	
2007	7	16 ～ 17	貨車の入れ換えのため、貨車の二両目前方付近に乗車していた被災者がレール上に倒れて死亡しているのが発見された。被災者は機関車と貨車（14両）の連結及びポイント（分岐器）切り替えの連絡作業に従事しており、運転手に減速の合図（無線）をした後、ポイント付近で貨車から転落し、貨車の台車のフレームに激突した。	40101	18	～ 29	10
2007	10	14 ～ 15	地下駅構内で、3人一組で分岐路（ポイント）の点検を行っていた列車監視役の保線作業者が、近づいてきた列車にはねられた。現場には列車接近警報装置が設置されており、警報音が鳴ったため、3人は一旦避難したが、被災者は再び線路内に入った。	40101	18	1～ 9	

2007	3	13 ～ 14	鉄道駅ホームを西側から東側へ通行の際、線路に転落し、入車してきた電車にはねられた。	120109	18	300 ～ 499
2008	3	15 ～ 16	打ち合わせをするため事業場から相手先へ向う途中、鉄道踏切の遮断機を越えて踏切内に進入して電車と衝突した。	80409	17	1～ 9
2009	11	8 ～ 9	住宅屋根補修工事現場で使用する資材を購入するため、被災者が社有車で市内のホームセンターに向かう途中、警報器及び遮断機がない踏切を通過しようとしたところ普通列車と衝突した。なお、助手席には当該住宅の修理依頼主が乗車していた。	30209	18	1～ 9
2009	10	11 ～ 12	社用車を運転して、介護利用者にケアプランを届ける途中、踏切に進入して電車と衝突し被災した。	130201	17	30 ～ 49
2009	7	2 ～ 3	鉄道下り線のレール交換作業において、被災者は敷石を運搬するための籠を持ちながら、上り線路を横断していたところ、貨物列車にひかれた。なお、列車運転士は被災者の姿を約50m手前で発見し、警笛を鳴らして急ブレーキを掛けたが間に合わなかった。また、本作業時には監視人を配置して、列車が通過する際には無線と声で知らせていた。	30104	18	1～ 9
2009	2	1 ～ 2	駅から駅間でPCマクラギの積み込み作業を行っていたところ、電車接近の合図があったため、作業を一時中断して待避していたが、電車が通過する際、触車して被災した。	30104	18	10 ～ 29
2009	3	7 ～ 8	被災者はミニバイクにて朝刊配達中、踏切内で転倒し、転倒現場の目撃者とともにミニバイクを踏切外に移動した後、踏切内に散乱した新聞を収集しようと再度踏切内に進入し電車にはねられた。	80205	18	30 ～ 49
2010	3	13 ～ 14	駅構内の線路の間に倒れている被災者が発見され、7時間後に死亡が確認されたもの。現認者がいないため推定となるが、被災者が乗っていた貨物列車から駅ホームに向かうため降車しようとしていたところ、何らかの原因で転落若しくは自ら飛び降り、動いている最中の同列車に接触	40101	18	30 ～ 49

			したものと思われる。			
2010	5	9 ～ 10	D51型の1／2スケール電気機関車（6両編成。乗客の周遊に使用）に乗って始発前作業として軌道上のゲート鋼製扉を開けるため線路内で機関車を停車して降り、扉を開けようとしたところ、機関車が動き出して機関車に背を向けていた被災者が機関車と扉に挟まれ死亡していた。発見時に扉と機関車に挟まれた状態にあり現認者はいない。停車地は傾斜しており、何らかの原因で停車していた機関車が逸走したとみられる。	140302	6	10 ～ 29
2011	1	11 ～ 12	被災者は、事業場の指示により書類発送のため、自宅を出て郵便局に向かう途中、踏切において、踏切遮断中にもかかわらず、踏切横断のため遮断機を手で下げ、踏切に進出したところ準特急電車に激突し死亡した。	170209	18	1～ 9
2011	2	12 ～ 13	飲料水試験検査（試料採取）の出張業務として、被災者は社用車を運転して県道を走行し、町内の踏切を通行しようと同踏切内に入ったところ、列車に衝突された。当時、踏切の遮断機は故障しており、その両側に配置された社員各1人が手動によるその開閉と通行車両の誘導にあっていたが、本件はその誘導者の誘導ミスにより発生したものとされる。	170209	18	100 ～ 299
2011	12	6 ～ 7	新聞配達を終了した被災者が、踏切横に所在する新聞配達店にバイクを置きに行くため同踏切内に入ったところ、下り列車に跳ねられたもの。なお、踏切の遮断機は降りていた。	80205	18	30 ～ 49
2012	4	20 ～ 21	出張先から直接自宅へ帰宅途中、誤ってプラットフォームから線路内に転落。その際、ホームに入線してきた列車に轢かれ死亡した。	170209	18	300 ～
2012	7	12 ～	電車線（電線）の碍子交換等工事において、当該工事の下り線の中継列車見張り員として、当該工事箇所から東に約2km離れた駅構内のホームで業務を行っていた被災者は、昼の休憩後の作業開始前に立哨予定付近の下り線内で通過した特急列車に触車し死亡した。特急列車の運転手	170201	18	30 ～

		13	によると被災者を発見した際、被災者は後ろ向きで、警笛を鳴らした後は進行方向に走って行ったとのこと。			49
2012	10	23 ～ 24	国道において、4 tトラックで走行中対向車線に入り、走ってきた大型トラックと正面衝突した。	40301	17	1～ 9
2013	6	1 ～ 2	被災者は、同僚11名と道床のバラスト（砂利）交換作業に従事していた。被災者が線路上で、バラストの整理を線路上で行っていたところ、バラスト置場からバラストをバックで運搬してきた軌陸ダンプ（最大積載量3 t）にひかれた。被災者は軌陸ダンプに約6 m引きずられ、軌陸ダンプはその後15 m進んで停車した。	30104	6	10 ～ 29
2013	2	14 ～ 15	被災者は、ATC新設のため不要になったケーブルを撤去する工事において、踏切信号機に接続するケーブルを保護するコンクリートトラフの蓋を閉める作業に従事していたところ、通過電車が進入し、退避が遅れた被災者が当該電車に接触し、被災した。	30301	18	10 ～ 29
2013	4	9 ～ 10	被災者は、工事現場内で音響設備の設置作業中、駐車場に駐車していた車まで道具を取りに行き、駐車場から作業場所まで戻る途中、遮断機のない踏切（歩行者専用）を渡っていた際、進行していた電車と接触した。	30309	18	10 ～ 29
2014	3	23 ～ 24	テレコン装置により軌道車を操作し、軌道車に連結した台車を移動させていた際、移動していた台車の前面ステップが被災者の脚部に接触し、レール上に転倒。台車の車輪に腹部を轢かれ、死亡した。	11001	7	50 ～ 99
2015	11	15 ～ 16	軌道維持保全用の特殊車両バラストレギュレーターの点検・整備作業中、被災者が車両に備え付けられた機械装置の可動範囲に上半身を乗り出して作業をしていたところ、何らかの原因で当該機械装置が上昇し、車両の本体と機械装置の間に頭部を挟まれたもの。	30104	7	30 ～ 49
2015	12	16 ～	検修工場で鉄道車両の屋根に上がって新鮮外気装置のカバーの取り付け作業を5名で行っていた被災者が、使用していた安全帯のフックを新鮮	11503	1	300 ～

		17	外気装置のカバーの取っ手から取り外したときに、鉄道車両の屋根の端から3.8m下のコンクリートの床に墜落し死亡したものの。			499
2017	12	18 ～ 19	輸送指令から雪害警戒体制が発動されたため、操車場構内において被災者ともう1名で融雪器の点火作業を行っていたところ、上りの旅客列車に激突され、死亡した。なお、列車との接触を防止するための監視人は、被災者本人であった。	40101	18	30 ～ 49
2017	9	14 ～ 15	原付バイクで南側から北側に横断中、普通電車にはねられ、即死した。踏切には警報機や遮断機がなかった。	90101	18	1～ 9
2017	2	0 ～ 1	電路のがいしを交換する作業のため、工事指揮者1名、作業責任者1名、作業従事者1名、見張人1名が現場配置した。下り線の作業であったが、上り線の貨物列車の通過を待つため、作業者等は退避、見張者は当該貨物列車にライトで退避完了を合図していたところ、当該見張者が貨物列車先頭車両右側面に接触した。	170201	18	10 ～ 29
2018	9	6 ～ 7	自宅から一般試験の為、会場に向かう際、駅のホームから転落し、侵入してきた列車にひかれた。	90103	18	50 ～ 99
2019	12	4 ～ 6	自宅から支店に出張するため、駅まで自家用車を使用し、駅北口付近の駐車場に車を止めたあと、踏切を渡り駅南口付近まで移動した。その後、再び踏切を駅南口から駅北口に向かって渡ろうとしたところ、走行中の特急列車にはねられ死亡したものの。	170209	18	50 ～ 99
2019	5	16 ～ 18	新聞配達業務において、警報機があり遮断機のない踏切（通路幅約1m）を渡ろうとしたところ、普通列車にはねられた。	80205	17	10 ～ 29
2020	1	8 ～ 10	線路に近接した水路工事において、残土置き場から作業場所に徒歩で戻っていた被災者が、線路の踏切ではない場所を横断していた時に、走行中の鉄道車両にはねられ死亡した。	30107	18	1～ 9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_05.html